

「海軍技術研究所現状一般」

（昭和十一年八月二十日現在調）

下河邊 宏 滉

防衛研究所図書館史料閲覧室がある目黒地区は江戸時代には、

歴代将軍が良く鷹狩に出かけたところで、その将軍の逸話の一つ

として「目黒のさんま」の落語が知られている。同地区の前身

は、嘉永六年（一八五三年）ペリー提督の浦賀来航により、泰平

の眠りを覚ました幕府が、約四五万坪を御用地として、ここ目

黒の「おとめ山」付近を収用し砲薬製造所を設立したのが始まり

である。その後、明治十三年に明治政府の目黒火薬製造所が発足

し、三田用水を利用する水車を動力源として黒色火薬が製造さ

れ、明治十八年には海軍火薬製造所として操業されるようになつ

た。さらに、同火薬製造所は明治二十六年に海軍から陸軍に移管

されたが、大正十二年の関東大震災後、火薬製造設備が他に移管

され、当地区は再び海軍所管のものとなつた。

一方、築地にあつた海軍技術研究所は、大震災で施設に大損害を受けたのを機会に、昭和五年に当地区に移転し、海軍唯一の統一技術研究機関として多くの業績を残した。戦艦大和、武藏等も

この研究所の成果として生まれたといわれている。

ここで紹介する史料は、その海軍技術研究所を昭和十一年に当時の海軍大臣永野修身が視察した際の状況報告資料である。

本史料は防衛研究所図書館史料閲覧室所蔵の

「昭和十一年

海軍技術研究所現状一般

1、愛知時計現状報告書

2、三菱重工名古屋航空機工場現況報告

の中の「海軍技術研究所現状一般」である。1、2の史料は同大臣が名古屋の愛知時計電機株式会社と三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所を四月に視察した際の資料で、これらは大臣視察資料として一括して綴じられたものと思われる。

なお、「海軍技術研究所現状一般」の鑑は口絵に掲載してある。

海軍技術研究所現状一般

一、沿革

明治二年武庫司ヲ設置セラレマシテカラ海軍兵器局、海軍兵器製造所等ノ官制改革ガアリマシテ明治二十七年日清戦争當時ハ海軍造兵廠デアリマシタ

明治三十年五月ニ東京海軍造兵廠ト改メラレマシテ海軍大臣ニ隸属セシメラレ同三十三年五月ニ海軍艦政本部長ニ隸属スルコトニ改メラレマシタ

明治四十二年四月ニ再ビ海軍造兵廠ノ名稱ニ改メラレマシタ同四十三年十二月ニ芝區赤羽ヨリ築地ニ移轉致シマシタ

同四十四年六月ニハ皇太子殿下ノ行啓ガアリマシタ

大正十二年四月ニ海軍造兵廠、海軍航空機試験所、海軍艦型試験所令ヲ廢セラレ只今ノ海軍技術研究所令ガ制定サレマシタ

同年九月大震災ノ爲建物、機械器具、記録等全部焼失致シマシタガ翌十三年三月ニハ假建物デ研究作業ヲ再興致シマシタ同年十一月ニハ霞力浦ニ出張所ガ出來マシテ同月摂政宮殿下行啓アラセラレ又

昭和四年十一月ニハ天皇陛下霞力浦航空隊ヘ行幸ノ砌當出張所ヘ行幸在ラセラレマシタ

昭和五年七月當科學研究部ノ一部ヲ平塚ニ移シ同九月ニハ築地ヨリ當地ヘ移轉致シマシタ

二、職員以下従業員ノ現状

(イ) 職員

官別	高等官	判任官
定員	五九	六三
艦本定員	五五	四二
現員	五七	四二
過不足	○	○
記事	定員ハ定員表ノ定員及臨時増置職員ノ合計ヲ示スモノデアリマス	定員ハ定員表ノ定員及臨時増置職員ノ合計ヲ示スモノデアリマス

同六年十月ニハ天皇陛下行幸アラセラレ同年十一月田浦出張所ヲ置カレ、七年四月海軍航空廠新設ニ伴ヒ當所航空研究所ガ同廠ニ移サレルト伴ニ霞ヶ浦出張所モ海軍航空廠ニ編入サレマシタ同九年四月海軍技術研究所令ノ改正ガアリマシテ科學研究部ヲ理學研究部ト化學研究部トニ分離サレマシタ同九年十二月ニハ秩父宮殿下御視察ノ爲御成リ遊バサレマシタ

高等官ノ現員ハ五十七名、定員ヨリ二名多ク居リマスガ此ノ内定員外トシテ承命服務及實習技術科士官各一名アル爲デス

職員勤務別ノ状況

		勤務状況別			官別員數	
		當所專務者	他廳本務ニシテ當所常時勤務者及承命服務者	當所勤務者	高等官	判任官
三	三	九	一〇	二	三三	四〇
	一		一			
			技術會議議員 ヲ含ミマセン			

(口) 嘴託

勤務別	當時勤務者	待遇別	
		高等官	判任官
八	八	八	二
一〇	一〇	一〇	二
理學二名、化學七 名、庶務一名	兼務嘴託二名 ヲ含ミマセン	日	
計	者四名アリマス	出所スル	
記事			

當所ニ於ケル嘴託中當時勤務嘴託ハ職員ノ缺ヲ補ヒマシテ夫々委嘱業務ヲ擔當シ職員ト全ク同様ノ勤務ニ服スルハ勿論其ノ業績ハ極メテ優秀デアリマス 即チ
 理學研究部實驗心理ニ關スル研究嘴託ハ二名
 化學研究部化學兵器ニ關スル研究嘴託ハ七名
 庶務課部外委託研究事務ノ嘴託力一名デス
 又隨時出所嘴託者中ニハ學界ノ權威者多ク其ノ擔當研究事項ニ關シマシテ研究者ヲ啓發誘掖スル處極メテ大デアリマス

(八) 雇員傭人及職工等

總員數

職別	雇員	庸人	職工	臨時職工	計
定員	八五	一七	七三七	九二	一〇〇三
現員	八三	一七	六九〇	八五	九四三
過不足	(二) 二		(二) 四七	(二) 七	(二) 六〇
一、平塚出張所ノ員數ヲ含ミマス					ス
二、職工員數中ニハ特務工手級ヲ含ミマス					ス

三、業務及實驗研究

(一) 一般業務

業務ノ遂行ニハ先づ判断ノ適正ト實行ノ確實迅速ト指揮系統機關ノ正シキ運用及上下ノ意思ガ相互ニ徹スル如ク尚監督ノ徹底ニ意ヲ用ヒテ居リマス

経費ハ節約ヲ計リ事業實施ノ案畫ヨリ實施ニ至ル迄人件費、物件費ノ全般ニ亘ツテ冗費ナキ様留意シ一方當所重要業務遂行ニ要シマスル資材ハ之ヲ惜ムコトナク十分準備活用シ常ニ最少ノ経費ヲ以テ最大ノ効果ヲ收ムルニ努メテ居リマス又各人ノ能率増進ニ意ヲ致シ工費ノ合理化ヲ期スル爲公休日出業ヲ慎重ニ實施シ毎月第二、第四日曜日ノミニ限定期同一人ニ對シ之ヲ命ズル場合ハ必ズ月二回以上ノ休養日ヲ残スコトニ致シテ居リマス

斯ク致シマシテ業務ハ一般ニ順調ニ遂行セラレツツアリマス
(二) 研究實驗

當所ニ於ケル研究實驗ハ研究實驗綱領ヲ典則トシ海軍大臣及艦政本部長訓示ノ御主旨ニ遵ヒ且艦政本部主務當局トノ連絡ヲ密ニシ毎年度ノ實施方針ニ基キ一途目的達成ニ最善ノ努力ヲ致シテ居リマス

尚各研究實驗事項ニ就キマシテハ後刻所内御巡視ノ際各部長及擔當者ニ説明致サセマス

(三) 造修作業

昭和十一年度の造修工事ハ化學研究部ヲ除キ概括致シマスト
現状左ノ如クデアリマス

計	造船研究部		電氣研究部		理學研究部		格部別	
	受託工事	製造兵器	受託工事	製造兵器	受託工事	製造兵器	工事區分	
一二六	四		一六	八六	二〇		件數	完 成
四、三八四	四		一三五	一、〇四三	三、二〇二		數量	
一八九	三		一一	一六二	一三		件數	未完成
一、五六三	四		一三	八七四	六七二		數量	
三一五	七		二七	二四八	三三		件數	計
五、九四七	八		一四八	一、九一七	三、八七四		數量	
							備考	

四、部外研究機關トノ連繫及其ノ利用程度

目下ノ制度ニ於キマシテハ研究事項ヲ部外研究機關ニ委託致シマスニハ國防科學協議會ヲ經テ之ヲ行ヒ而モ其ノ委託ハ擧ゲテ當所ノ所掌デアリマシテ當所ト協議會トハ極メテ密接ナル關係ニ在リマス 又各部長及所員ヲ中心トシテ連絡、利用セシメテ居リマス主ナルモノヲ述ベマスト大様次ノ通デアリマス

(イ) 理學研究部所掌事項ニ就キマシテハ

(光學關係)

(1) 暗中測距裝置ノ基本的部分デアリマス暗視裝置ハ「テレビジョン」ト關聯スルトコロ多ク濱松高等工業學校、東京電氣株式會社等ト連繫ヲ保チ設備ノ利用、改善ノ參考資料等ヲ得ツツアリマス

(2) 热線應用觀測裝置ニ用ヒマス熱電堆トシテハ東北帝大學部製作ノモノヲ購入實驗致シマシテ成績良好デアリマス

(3) 大阪帝大理學部ニテ研究試製シマシタ結晶食鹽ハ前項熱電堆窓トシテ使用シ得ル望ガアリマスノデ其ノ性能ニ就テ試驗中デアリマスガ未ダ結論ニ至リマセン

(金屬材料關係)

(4) 必要ニ應ジ毎月一、二回東京帝大ノ俵囑託、吉川博士等ト連絡ヲ保チ實驗研究中重要ナ點ニ就キ意見ヲ徵シ又ハ指導ヲ求メテ居リマス

(實驗心理關係)

(5) 帝大航空研究所航空心理部ト海軍航空豫備練習生適正検査研究、射擊及操舵關係員適性検査研究ニ關シテ連絡ヲ執リ一部協同研究ヲ爲シツツアルト同時ニ帝大文學部心理學研究室トハ高木囑託ヲ通ジ常ニ連絡ヲ執リツツ利用致シテ居リマス

(ロ) 電氣研究部所掌事項ニ就キマシテハ

(1) 學術研究會議電波研究委員會ノ委員トシテ一名、同事務囑託トシテ二名ノ所員ヲ左ノ通連繫ヲ保タシメテ居リマス

一、超短波傳播性能ノ實驗研究ノ爲陸軍省、遞信省無線施設ノ利用

一、遞信省ト聯合シ電波傳播ニ關スル實驗ヲ研究中

標準器比較

(2) 東北帝大通信研究所ハ當所拔山囑託ガ同所長デアル關係上同氏ヲ通ジ左ノ如ク利用ヲ致シテ居リマス

一、電氣音響關係ニ於テ 三件

(ハ) 造船研究部所掌事項ニ就キマシテハ

(1) 造船協會内水槽委員會ヲ通ジマシテ帝大船舶工學科、遞信省水槽及三菱水槽當事者ト水槽技術ニ關シ協力研究ヲ行ヒツツアリマス昭和十年度内二三菱水槽ヘ實驗ヲ委託シマ

シタモノ八件、遞信省水槽へ二件アリマス、十一年度ハ現

在迄三菱水槽へ二件委託中デス更ニ二件同所へ委託利用ス

ル豫定デアリマス

五、教育指導及取締

(一) 教育指導

(イ) 高等官、判任官

高等官、判任官ニ對シテハ研究事項ノ相互連絡、知識ノ向上、研究心ノ鼓舞獎勵ヲ目的トスル輪講會ヲ隔週ニ行フ外各研究部デハ其ノ部所掌ノ研究項目ノ検討審議ヲ行フ研究會ヲ必要ノ都度開催シテ知能ノ啓發ヲ計リ又各種學會、講演會等ニハ公務ニ差支ナキ限り出席シテ或ハ講演ヲ、或ハ傍聽ヲナサシメ此等會合ノ機會ヲ利用シテ學界ノ權威者ト接觸スルノ機會ヲ作り廣ク知識ノ啓發ニ務メテ居リマス

其ノ他艦船兵器ノ實際使用狀況ニ通曉スル爲ト用兵者側トノ意見ノ交換ヲ致シマスコトハ兵器ノ研究造修上極メテ緊要デアリマスルカラ演習戰技等ニハ務メテ見學者ヲ派遣スルコトニ致シテ居リマス 尚部内實驗研究機關及學校トノ連絡モ充分ニ執リマシテ知能ノ向上ヲ計ツテ居リマスガ専門學ノ知識ヲ向上スルノハ結局各自ノ勉強心ヲ鼓舞獎勵スル外他ニ適當ナル方法ガアリマセンカラ大ニ學問ヲ勉強シテ組織アル知識ヲ修得スルコトヲ目途トシテ指導シテ居リマス

(二) 取締

(イ) 機密保持

従業員入業時ノ身元及思想調査ヲ嚴重ニ行ヒマシテ不良分子ノ侵入ヲ防止スル外構内取締内規ノ勵行、機密研究室特種鎖鑰ノ設備等内外ニ對シテ嚴重ニ警戒シテ居リマス外機密研究室勤務者ノ身上ニ關シテハ不斷ノ調査ヲ行ツテ居リマス 又極秘兵器ノ造修ハ製造能力ノ關係上已ムヲ得ズ部外ヲ利用シテ居リマスガ全般的ノ機能ヲ窺知サレヌ爲部分品ニ分ケ夫々異ツタ製造者ニ製造セシメ組立ノミハ所内ニテ行フ方法ヲ講ジテ居リマス

(ロ) 保安

危険物、電氣設備等ノ取扱ニ關シマシテハ不斷ノ注意ヲ喚起シテ災害防止ニ努メテ居リマス

(ハ) 警衛

當所ノ周圍ハ外部ヨリノ侵入ガ容易デアリマスカラ之ガ警衛ニ對シマシテハ其ノ任ニ當ル者ニ對シ巡回ノ守則ヲ定メ忠實ニ勤務スル如ク指導シテ居リマス

六、出師準備

細目ニ關シテハ當所出師準備計畫實施方案書ニ依リ實施致シマスガ其ノ要旨トスルトコロヲ述ベマスト
戰時職員ノ部署ハ定員ハ現状通トシ増加員ハ昭和十一年艦本

機密第二號ノ三通知ノ戰時増加員表ノ通實施致シマス

七、醫務衛生

防空ハ防空部署ニ依リ實施シ燈火官制ニ依ル燈火隠蔽及遮蔽装置ハ現状設備ヲ基礎ニ計畫済デアリマシテ昭和八、九、十、十一年度防空演習ニ依リマシテ其ノ一部ノ設備ヲ了シマシタ十二年度ニ於キマシテハ防空施設ヲ完了スル豫定デアリマス

警衛保安ニ關シマシテハ人員ヲ増加シ擴張建設工事、製造材料ノ納入及成品ノ運搬等ニ關シ出入スル多數ノ部外者ノ監視

警戒、構内及構外ノ警衛及災害防止ニ努メテ居リマス
當所化學研究部（平塚出張所）ニ於キマシテハ防毒兵器、特

藥、發煙兵器、特炸藥等ヲ生產致シマシテマスク検査工事、發煙浮筐生產工事ハ目黒本所内ニ於テ理學研究部ニ委託スルコトニナッテ居リマス

電氣研究部ニ於キマシテハ送信機、受信機、無線電話機、空中聽音機等ヲ生產致シマス

特二製造作業ヲ配當セラレマセヌ各部ニ於キマシテハ情況ニ應ジ要求セラル新奇ナ艦船兵器ノ研究考案ト敵ノ新奇攻擊法ニ對應スル防禦法ノ研究考案ヲ爲スト共ニ現研究實驗作業ヲ繼續シテ其ノ重要度大ナルモノハ促進シ、サウデナイモノハ中止スル等適宜按配シテ新要求ニ即應スル計畫デアリマス。

（一）當所醫務課ハ本所ノ外ニ艦政本部及航空本部製圖工場、建築局ノ醫務衛生ヲモ擔任シテ居リマス

從業員ノ保健ニ關シテハ最モ意ヲ用ヒ毎月一回總員ノ体重秤量ヲ行ヒマシテ其ノ推移ヲ見定メ体重激減者ハ其ノ都度

綿密ニ健康診斷ヲ行ヒ特ニ結核患者ノ早期發見ニ留意シテ居リマス

其ノ他烹炊所關係員ニ就テハ毎月總員檢便ヲ行ヒ傳染病ノ豫防ニ務メテ居リマスノデ目下衛生狀況ハ極メテ良好デアリマス

最近八箇年間ニ於ケル患者數ハ次表ノ通デアリマス

種別 年別	公 傷 痘	患 者 數	公 務 外 傷 痘 (休業以上)	疾 病 二 依 リ 解 儲 セ ラ レ タ ル 従 業 員
昭和四年	四四	七七	三	
昭和五年	六九	九八	八	
昭和六年	三五	九七	六	
昭和七年	四二	九四	一〇	
昭和八年	四六	七六	七	
昭和九年	六六	九四	七	
昭和十年	八二	一一三	一九	
昭和十一年(八月 二十日現在)	四〇	八二	三	

八、會計經理

(一) 十一年度總豫算額ハ四百五拾萬圓餘デ内工事費豫算額ハ四百拾參萬餘圓デアリマス

(二) 右工事費中試験研究費ト造修費トノ割合ハ試験研究費三三%ニ對シ造修費ガ六七%デアリマス

(三) 十一年度工廠資金ハ固有資金參拾貳萬圓臨時補足百貳萬六千圓計百參拾四萬六千圓デアリマス内出師準備貯藏用トシテ百六萬餘圓ヲ充當固定シマシタカラ差引運轉資金ハ貳拾八萬餘圓デアリマス

九、諸營造物

(一) 土地ノ現状

現有土地ノ面積ハ目黒約五萬三千坪品川臨海實驗場用地約百五十坪ニアリマシテ平塚出張所現敷地約壹萬五千坪ハ火薬廠ノ敷地ヲ借用シテ居リマス

當所所屬雜役船繫留場トシテ目黒川河口品川荷揚場附近ノ水面約百六拾坪ヲ東京府ヨリ無償ニテ借用シテ居リマス

(二) 増 地

平塚出張所化學兵器製造工場用地約貳萬壹千餘坪買收及同施設一部新營ノ件ハ既ニ訓令濟デアリマシテ本年度中ニ土地買收ト施設ニ著工サレル豫定デアリマス

(三) 建物其ノ他現状

現有建物總延面積ハ目黒約壹萬壹千坪、平塚約貳千貳百坪、其ノ他工作物ハ金額約六拾九萬圓餘ノ施設ガアリマス

(四) 增 築

(イ) 復原性能試験水槽八十年十二月工事ニ著手シ現在ハ水槽コンクリート打工事ヲ終リマシテ同上家ノ基礎工事ニ著手シ全工程ノ約六〇%進捗シテ居リマス

(ロ) 高速風洞研究室新營ハ未訓令デアリマスガ既ニ十一年度水陸設備費ヲ以テ鐵筋コンクリート造三階建總面積六九三平方米ノ新營ノ内示ヲ受ケテ居リマシテ建築局ニテ現場ノ調査モ終リ近々訓令ヲ出サル豫定ト聞イテ居リマス

(五) 増築ヲ要スルモノ

(イ) 極超短波及超短波研究用トシテ十一年度ニ増地サレマシタ

品川臨海用地ニ同研究用實驗室ノ新設ガ必要デアリマス
(ロ) 船体重構造物研究室ハ現在當所ニハ其ノ設備ナキ爲之ガ最小限度ノ研究設備ノ新設ガ必要デアリマス

(ハ) 印字機關係研究ニ於キマシテハ其ノ機密保持ハ特ニ萬全ヲ期スル爲速ニ獨立ノ建物ヲ特設シテ暗號生命ノ維持ヲ確實ナラシムルコトガ必要デアリマス

一〇、機械數量

部課別	記事	數量	價格	理學研究部	化學研究部	電氣研究部	造船研究部	庶務課	在庫	部外貸與	計
一七九	八三一、三六九圓	一一九	一一九	一二	二三七、三七二	二〇六、九一五	三三	二	三一	一	二八〇
五一八	五一八	四三五	四三五	〇五四	四八一	四〇〇	五六二、八〇一	一三、〇三八	五二、八〇一	四、七九八	一、六六七、一〇九
四六二	四六二	八九六	八九六	六七八	六七八	古品	住友金屬工業株式會社へ貸與				

(参考圖表十五葉添)

(終)

報告件数比較表（昭和二年度以降）

- 海軍技術研究所勢一覽（第九表）身体検査数、公傷病患者数及び公務外傷病患者数比較表（大正十三年度以降）

参考圖表十五葉及び添付資料については以下表題のみ紹介する。

○從業員學歴調（通常職工）

○從業員學歴調（職夫）

参考圖表十五葉

○海軍技術研究所勢一覽（第一表）総経費、工事費及資金支出年

度別比較表（大正十三年度以降）

○海軍技術研究所勢一覽（第二表）試験及造修別工事費比較表

（昭和五年度以降）

○海軍技術研究所勢一覽（第三表）工費、材料費及物價指數比較表（大正十二年度以降）

○海軍技術研究所勢一覽（第四表）職工、職夫及女工員数比較表
（大正十二年度以降）

○海軍技術研究所勢一覽（第五表）職工、職夫及女工平均賃錢比較表（大正十二年度以降）

○海軍技術研究所勢一覽（第六表）機械器具、現在高比較表（大正十五年度以降）

○海軍技術研究所勢一覽（第七表）國有財産（大正十二年度以降）

○海軍技術研究所勢一覽（第八表）年度末研究件数、完了件数、明

添付資料

○昭和十一年度研究實驗部長打合會議二於ケル現状申告（口述）

一一一七一七 海軍技術研究所理學研究部長

電氣鎔接棒二關スル件

擔當所員 造兵大佐 五百旗頭啓

技師 茂木 武雄

○海軍技術研究所理學研究部現状申告（口述）覺

一一一八一二六 理學研究部長

○電氣研究部作業現状（昭和一一、八、二六 大臣視察時部長説明）

○電氣研究部一般現状

昭和十一年八月二十六日

○技研機密第一五七號

昭和十一年六月六日

海軍技術研究所長

海軍艦政本部長殿

金屬材料參考資料二關スル件提出

○技研機密第七〇號

昭和十一年八月二十四日

海軍技術研究所庶務課長

海軍省副官殿

海軍大臣當所御視察行事ノ件送付

資料「海軍大臣當所御視察行事ノ件送付」には、巡視順序と時刻表、巡視中の心得、準備事項その他に海軍大臣巡視順路が赤線で記入された縮尺二千分の一の海軍技術研究所敷地平面図及び理學電氣建物室名稱及び室番の青焼き図面がつけられている。敷地平面図には大水槽や実驗池も記入されており、現在の防衛研究所図書館史料閲覧室の位置するところは「商人控所」と記されている。